

## シラウオ (シラウオ科)



**学名** : *Salangichthys microdon*

**別名** : シラス, シラオ, トノサマウオなど

**大きさ** : 体長 10 cm

**特徴** : 体型は細長く, 生時の体色はほぼ無色透明で, 尾びれや臀びれ, 体腹面など黒色素胞 (黒い点) が目立つ。死後の体色は白色不透明。下顎は上顎よりも前が出る。上顎先端は黒い。目立たないが小さな脂びれがある。成熟が進んだオスでは臀びれ基底前半の体高が高くなるとともに鱗が発達する (上の写真)。この鱗には吸着性がある。メスでは体高の発達は顕著ではない。年魚。

産卵期は 2~5 月で砂底や砂礫底に産卵する。卵は長径 0.7~0.9 mm の沈性付着卵で, “纏絡糸 (てんらくし)” と呼ばれる付着装置で水底の砂粒に絡むことで固定される (写真 1)。食性は主に動物プランクトン食。

茨城県には本種と同じ属に分類されるイシカワシラウオ (*S. ishikawae*) が分布しているが, 上顎先端が黒くないこと, 尾びれがほぼ透明であること, 尾びれ基底の黒色

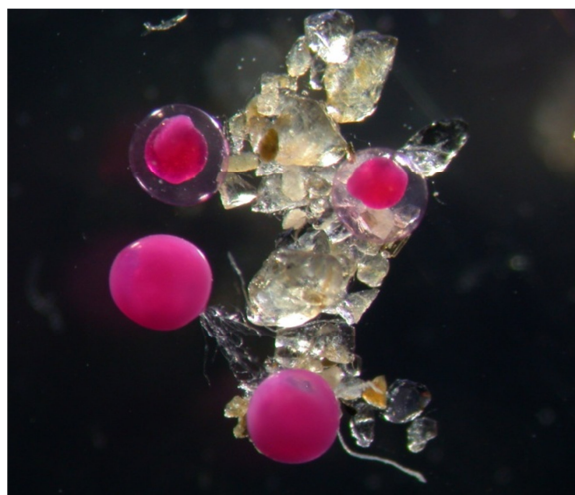


写真 1: シラウオの卵。食紅で染色したため色が赤い (染色前は白色)。下から 2 つめの卵では, 糸状の纏絡糸が卵から出ているのがよくわかる。

素胞の形状などで容易に区別できる。なお, イシカワシラウオは海水魚で, 霞ヶ浦や牛久沼には分布していない。

**国内の分布** : 北海道から太平洋側は岡山県, 日本海側は熊本県までの, 河川河口域や内湾にひろがる汽水域に分布。

**県内の分布** : 霞ヶ浦水系や牛久沼のほか, 利根川や涸沼を含む那珂川, 久慈川の汽水域に分布。

**県内での生態** : 霞ヶ浦や北浦における産卵

盛期は3～4月。産卵場は湖岸近くの水深約1～2mにある砂底や砂礫底で、湖全域にみられる。霞ヶ浦・北浦で仔魚が出現するのは3月下旬から5月上旬で、4月上旬がピーク。この後7月には体長約30mm、9月には約45mm、10月には約60mm、11月から12月には約70mmまで成長する。主な餌生物はケンミジンコやミジンコなどの動物プランクトンで、まれにイサザアミや仔魚も消化管からみつかるとされる。ただし本種は餌の選択性は乏しいとされ、基本的には環境中に多い動物プランクトンを食べると考えられている。なお、涸沼における生態も霞ヶ浦のそれとほぼ同じ。

**備考：**本種は淡水から海水までの幅広い塩分環境下で卵が正常に発生し、生活史を完結することができる。かつて汽水湖であり現在は淡水湖である霞ヶ浦や牛久沼に本種が生息し続けているのは、広範な塩分環境に適応できる能力を全ての発育段階において本種が有していたためといえる。

茨城県においてシラウオは内水面漁業の重要な対象種である。霞ヶ浦と北浦では、主に漁船による曳き網漁業（トロール漁）や刺し網で漁獲され、涸沼では刺し網や掬い網で漁獲されている。2000年以降の年間漁獲量としては、霞ヶ浦では44～233トン、北浦では13～53トン、涸沼では2～3トンが記録されている。煮干しや佃煮などに加工される。

#### 主な文献：

- 加瀬林成夫（1967）霞ヶ浦におけるシラウオ *Salangichthys microdon* の天然餌料について（予報）．茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調査研究報告，9：9-14．
- 久保田次郎（1998）霞ヶ浦におけるシラウオの資源動向について．茨城内水試調査研究報告，34：29-40．
- 猿渡敏郎（1994）シラウオ—汽水域のしたたかな放浪者．後藤 晃・塚本勝巳・前川光司編．川と海を回遊する淡水魚—生活史と進化．東海大学出版会，東京．pp. 74-85．
- 富永 敦（2009）北浦潮来地先における1980年頃と2007年のワカサギとシラウオ産卵状況の比較．茨城内水試研究報告，42：15-19．
- 野内孝則（2006）霞ヶ浦・北浦におけるワカサギ及びシラウオ仔魚の出現について．茨城内水試研究報告，40：29-36．